

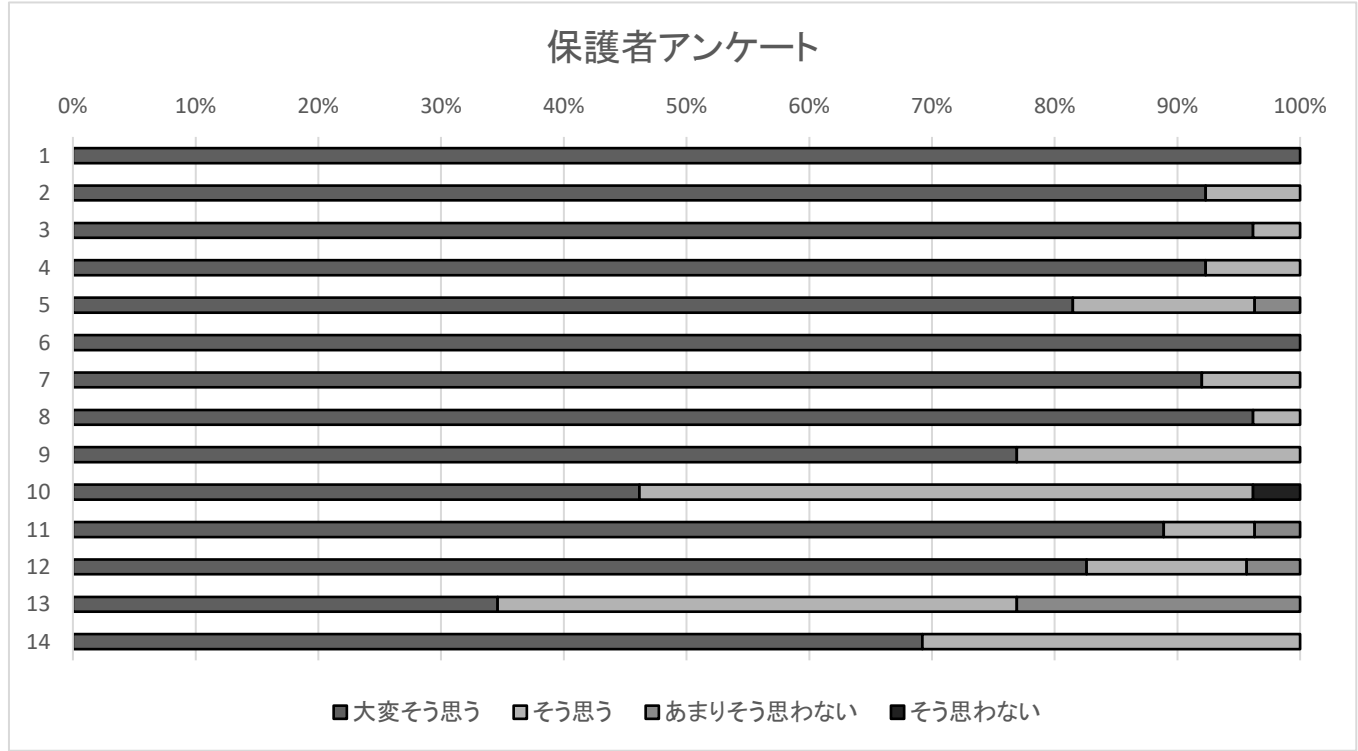
乾隆幼稚園だより特別号

京都市立乾隆幼稚園

園長 豊田 寿美夫

保護者・地域みなさま、本校の学校教育にいつもご理解とご協力ありがとうございます。
(9月)に実施した保護者アンケートの集計ができました。結果をお知らせいたします。

1	幼稚園は教育目標「心身ともに健やかで生き生きとした子どもの育てる」に向けての保育を行っている。
2	幼稚園の環境は、安全で子どもが豊かな経験ができるように整えられている。
3	保幼小連携・地域との連携等の取組は子どもの育ちにつながっている。
4	幼稚園には、さくらんぼ組や預かり保育等の子育て支援の取組のあることを知っている。
5	幼稚園は、お便り（子どもの姿）やホームページで活動の様子がわかるように発信している。
6	教職員は、子ども一人一人に温かいかわりをしている。
7	教職員は、生き生きと働いている。
8	お子さんは、楽しく幼稚園に通っている。
9	お子さんには、今、夢中になっているものがある。
10	お子さんは、自分のことは自分でしようとする。
11	お子さんは、家族、友達、先生など周りの人に親しみをもってかかわっている。
12	お子さんは、楽しんで預かり保育に参加している。(利用者のみ)
13	「ノーテレビ、ノーゲームデー」の取組だけでなく、普段から親子で絵本を読むことを続けている。
14	幼稚園での出来事など、お子さんの話に共感したり対話したりする機会は多くもてている。



後期には全国的にインフルエンザの流行もありましたが、本園は現時点で学級閉鎖もなく順調に保育ができています。特に保護者の参観が制限なしで、送り迎え時にも子どもたちの様子を見ていただけたところが、今回のアンケート結果につながったのだと思います。相変わらず幼稚園の最大の課題は年々減少傾向の園児数になります。園児数を増やすための取組は次年度以降も継続していきます。今年度の満3歳児預かり保育「いちご組」の利用された方の声を参考にして、次年度以降の取組を少しでも充実させ、「さくらんぼ組」や「いちご組」のこと、預かり保育のことを項目4にも関係しますが、広く発信していきたいと思います。

今回の項目の考察です。

・項目1 今年度の研究テーマは「夢中になって遊び込む子どもの育成～つながりが生まれる環境や援助に着目して～」です。子どもの人数が環境の一つとすれば、弱みにならないよう異年齢での活動を取り入れるだけでなく、翔鸞幼稚園との交流、乾隆小学校の1年生との生活科を通しての架け橋プロジェクトの合同研究にも着手し、多くの人との触れ合いを増やしていきたいと考えています。保護者の皆様にはご理解、ご協力ありがとうございます。

・項目2 LED化工事に伴い、園全体の照度が上がりました。当然、安全安心の幼稚園を目指し、施設、遊具の点検を行いメンテナンスは続けています。またICT運用で無線LANが届きにくいところへのWi-Fi工事も計画されています。春に収穫予定のえんどう豆やそら豆などを植えて収穫を楽しみにしていますが、園庭での野菜栽培は本園の魅力の一つになっています。

・項目3 項目1のところで記述した架け橋プログラムの合同研究は1年目として成果も見えてきています。2年目も継続する予定です。また、地域連携に関して言えば、後期は幼稚園の機織り機体験の時にゲストティーチャーに来ていただいたり、織成館の見学をさせていただいたりしました。見守り隊の方に毎日お世話になっていることを含め、地域の中の幼稚園と自負しています。

・項目4 毎日8時から18時までの預かり保育を行っています。生活に合わせて利用も増えてきています。今年度7月から始めた満3歳児の預かり保育「いちご組」も周知されてきました。次年度、週2回午後の利用も計画しています。詳しくはまた広報を行います。

・項目5 ホームページは更新を続けています。Instagramについては手続き中ですので、次年度初めからの運用を考えています。

・項目6、7は教職員に関しての項目です。子どもも教職員にも温かい眼差しで見ていただきありがとうございます。SDGs「誰一人取り残されない」を継続していきたいと思います。

・項目8から12は、子どもたちに関する項目です。楽しく幼稚園に通うことができていることはとても嬉しく思います。項目10の「自分のことは自分でする」という項目ですが、幼児段階からよい生活習慣をつけることは将来的な「学びに向かう力」や「認知」に影響が出ます。早寝早起き、後片付け、服がたためるといった生活習慣は、保護者が放っておいてできるようにはなりません。だからと言って訓練でやればよいものでもありません。保護者が子どもの個性を見取り、意欲を尊重し、思考を促すような寄り添いをすることが大切だと言われています。

・項目13についても、ある調査によれば、文字が読める子どもであっても幼児期の読み聞かせは大事だそうです。小学生のひとり読みにつながり、中学生の言語スキルや論理性を育てる事につながると言われています。読み聞かせも習慣になるといいですね。

・項目14もそうです。子どもを良く知っている大人が意欲を尊重し、思考を促す寄り添いができるとその後の子育てが本当に楽になります。幼稚園の間は「やってみたい・やってよかった」の経験を増やすことです。そのためにも寄り添い方を考え、できるだけコミュニケーションを増やしましょう。今その時間を惜しんでは、後々もっと時間を使うことになるかも知れません。